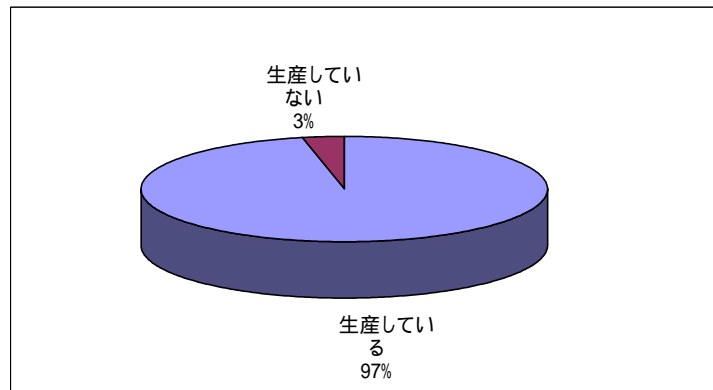


鉱工業品分野における地理的表示 (GI) 保護に関するアンケート調査結果

	数	%
配布数	298	-
回答数	144	48.3%

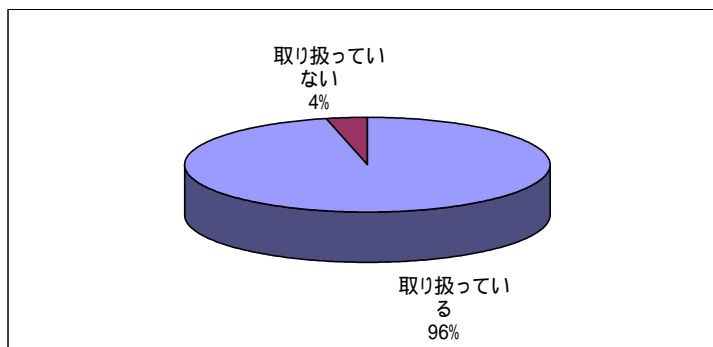
問1. 地域の地理的環境に由来する特産品を生産していますか。

	数	%
生産している	139	96.5%
生産していない	5	3.5%
合計	144	100.0%



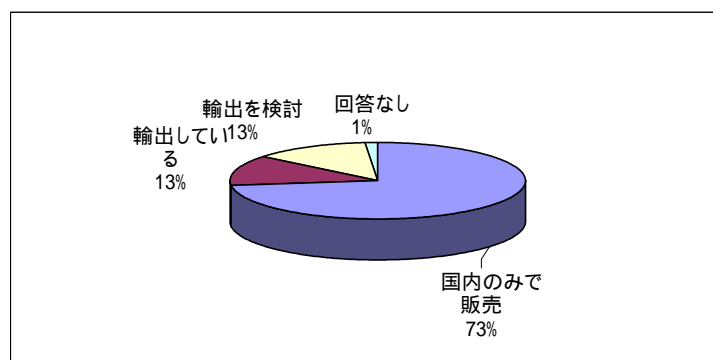
問2. (問1.で「生産している」と答えた場合)地理的表示を付した産品を取り扱っていますか。

	数	%
取り扱っている	134	96.4%
取り扱っていない	5	3.6%
合計	139	100.0%



問7. (問2.で「取り扱っている」と答えた場合)産品の販売実態についてお答えください。

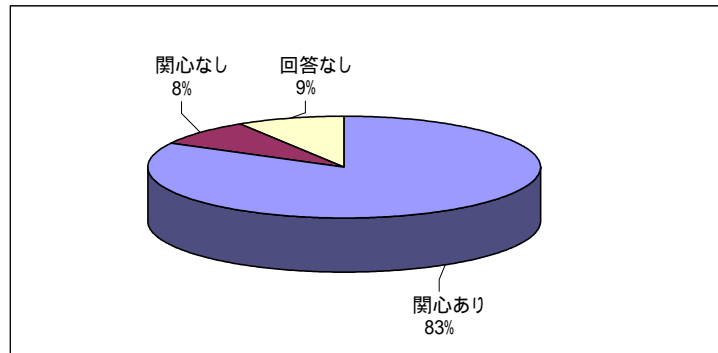
	数	%
国内のみで販売	98	73.1%
輸出している	17	12.7%
輸出を検討	17	12.7%
回答なし	2	1.5%
合計	134	100.0%



「輸出している」と答えた団体は、販売全体のうち平均で0.9割程度を輸出。

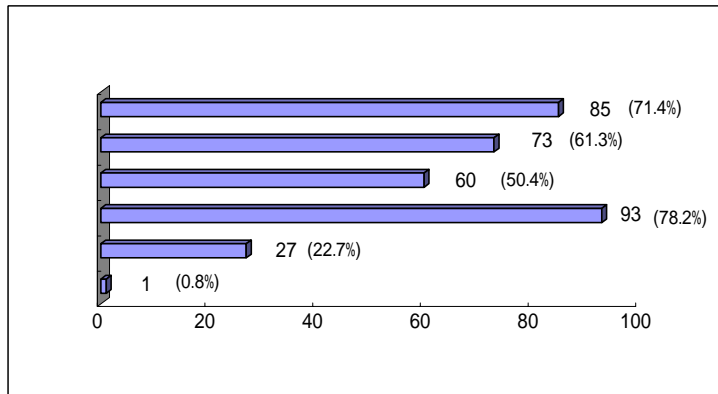
問8. 地理的表示の保護制度を新たに導入するとなれば、指定を受けることについて関心がありますか。

	数	%
関心あり	119	82.6%
関心なし	12	8.3%
回答なし	13	9.0%
合計	144	100.0%



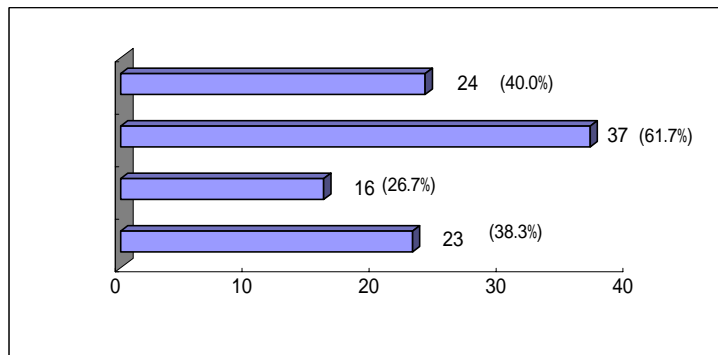
問9. (問8. で「関心あり」と答えた場合) 具体的には、地理的表示の保護に対してどのような観点から関心がありますか。(複数回答可)

地域経済を活性化するために、既存の地域ブランドを保護したい。
 産品の産地、製法、品質等を限定して、産品のブランド価値を保護したい。
 地域外の事業者による地理的表示を排除したい。
 地理的表示保護を通じて、伝統的工芸品としての価値を高めたい。
 新規ブランドを創出したい。
 その他



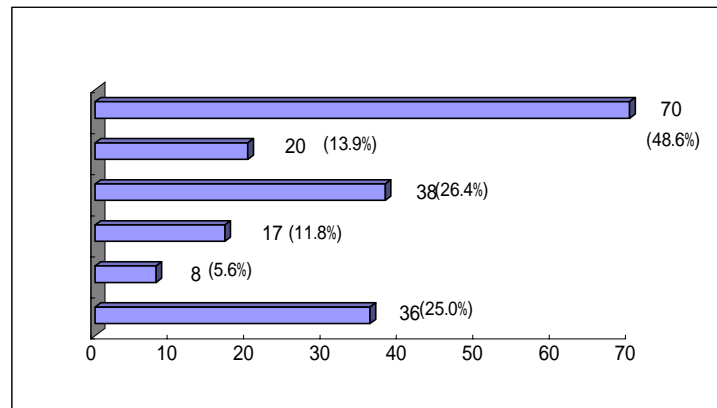
問10. (問9. で を選択した場合) 具体的な模倣品被害の実態について、お答えください。(複数回答可)

国内において国内メーカーの模倣品で被害を受けている。
 国外メーカーの模倣品が国内に流入して被害を受けている。
 国外において模倣品が製造・流通して被害を受けている。
 現時点では大きな被害はないが、将来的に被害が懸念される。



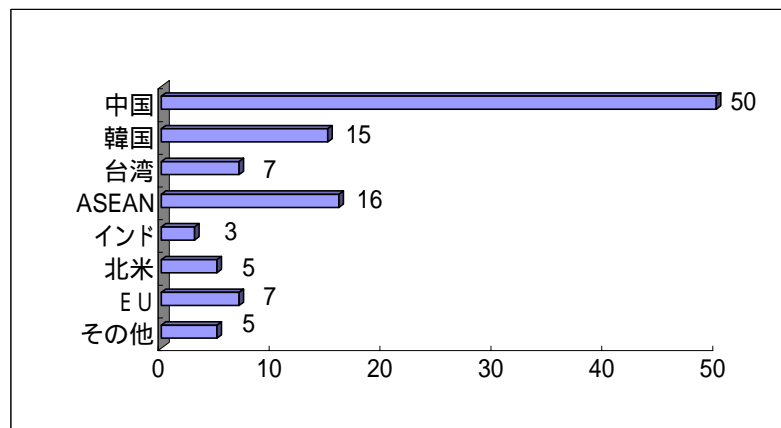
問11. 地理的表示の保護制度を導入するに当たって、どういった点に留意すべきとお考えですか。(複数回答可)

同種の産品が他国・他地域において生産されており、対象地域のみで製造されているとはいえない。
主に他国・他地域において行われている生産工程がある。
主に他国・他地域から原材料・部品を調達している。
生産者によって生産方法(技術、技法等)がまちまちで、特定が困難。
その他
回答なし



問12. (問11. で を選択した場合) 具体的にどういった国・地域において生産されていますか。

【海外】



【国内】

京都、茨城県、福島県、香川県、富山県、長野県、新潟、大阪府、兵庫県、山口県、山梨県 他

問13. (問11. で を選択した場合)

(1) 対象地域内においては、主にどのような生産工程が行われていますか。

【主な回答】

- ・金型、プレス加工、塗装(フッ素等)、研磨、包装
- ・金型、彫刻、成形加工、熱処理、研磨、洗浄、包装
- ・表面処理(メッキ・塗装)最終仕上げ
- ・伊勢型紙による手付け捺染/枠型によるハンドスクリー捺染
- ・黒染、上絵、補正
- ・図案、型彫、絵刷、括り、染色、糸抜、仕上
- ・設計-糸を撚る-緋染め-蒸し-緋分け-機経-管巻手織-手もみ
- ・木地挽きから仕上寸前の半製品までの工程
- ・括り、又は織締め技法によるかすり糸作り
- ・陶磁器の絵付(染付)
- ・全工程(手作業による)
- ・撚糸工程
- ・製織、染色整理、刺繍、縫製

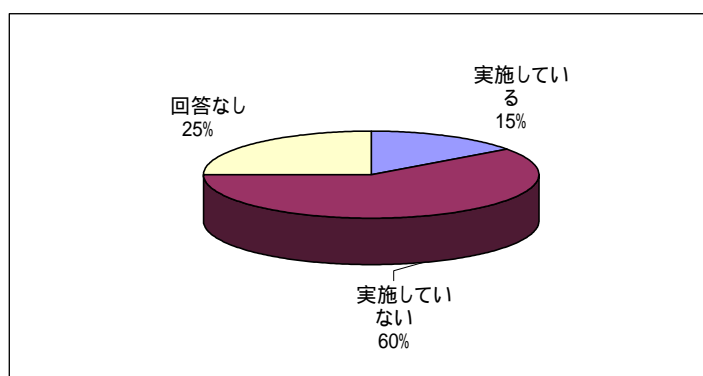
(2)また、他国・対地域で行われている主な生産工程はどういったものですか、その地域名と生産工程をお答えください。

【主な回答】

国・地域	生産工程
中国	金型、プレス加工、塗装(フッ素等)、研磨、包装
中国	ディナーナイフの熱間成形加工、ディナーのフォーク、スプーンの冷間成形加工
中国	金具を除く全工程。完成品として日本に輸入。
中国	括り(一部の技法)
中国	完成品を含む全工程
中国	日本から見本を送り、それに似た製品を作らせている
中国	木工せんばんによる加工
中国	刺繍・縫製(特に手の込んだもの)
中国(杭州地域)	火袋の張り工程(無地の紙張り、絹張り)
中国(広州、杭州他)	ほぼ全工程
瀬戸市内	瀬戸市内では、一部を除き、機械生産、鋳込生産の大量生産方式
中国、ベトナムを始め東南アジア全域	白生地製の織物から染色、刺繍、更に、その関連工程全般が行われ、完全製品として輸入されている。(縫製については、ベトナム、紋加工については、中国、韓
中国、ブラジル、ベトナム	擦糸工程
京都府・東南アジア等	枠型によるハンドスクリー捺染／枠型によるオートスクリー捺染
不明	部品製造 組立(表面処理前の工程)
不明	機械化工程が多いと思われる。

(3)OEM供給を実施しているケースはありますか。

	数	%
実施している	3	15.0%
実施していない	12	60.0%
回答なし	5	25.0%
合計	20	100.0%



問14.(問11.で を選択した場合)

具体的にどの国・地域からどのような原材料・部品を調達していますか。

【主な回答】

木材(北海道) / 漆(中国) / 漆工副材料(国内漆器産地) / 道具類(全国で数人しか作っていない道具が数多くある。) / 苧麻(マレーシア・フィリピン・中国) / 玉糸・真綿(中国) / 山羊毛、イタチ(中国) / 馬毛(カナダ、アメリカ)

問15.その他、地理的表示の保護について、ご意見、ご質問等がございましたら、ご自由に記入してください。

【主な回答】

・原産国表示の義務化に向けて3年ほど前から取り組んでいる。公正競争規約が昭和61年に公正取引委員会に認定され施行されているが、規約の存在は法律的にどのような位置づけであるのか疑問である。この中で原産国の表示が規定されているが、消費者に誤認を与えるような表示を禁じており原産国表示を義務づける規定ではない。表示規約が消費者保護であるならば規約に違反した場合の罰則を強化するべきであり、また協議会未加盟のいわゆるアウトサイダーに対する規制も強めるべきと考える。

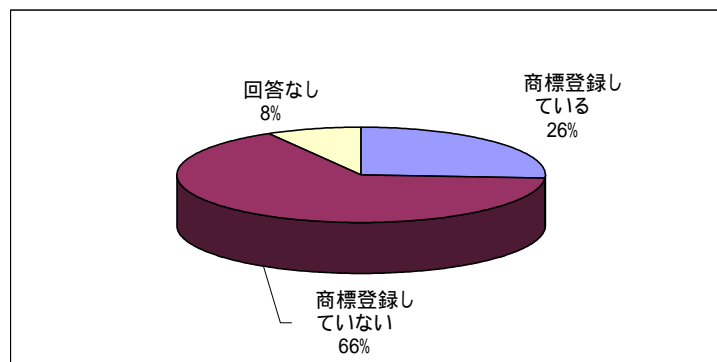
・酒(シャンパン・ポートワイン)、農産物並みの地域保護感覚が欲しい。
 ・技法の表示のみではなく、地理的表示が重要であることを何とか分かって欲しい。
 ・仏壇の需要は日本しかないのだから日本に流入する時点で生産国名の表示を必ずして欲しい。
 ・町村合併があり町名が変更になるので特に残したい。
 ・産地名表示を確立し、消費者保護を確保したい。 / 伝産品のみの産地表示でなく、産地製品の表示保護をして欲しい。
 ・陶磁器については地域間で原材料及び加飾技法、焼成等の生産工程に多少の差異があり、地域性のある製品を生産しているが、原料の枯渇問題、流通、情報の速度が高まっている現代では、今後ますます地理的な特徴が薄れていくのではないかと危惧している。
 ・殆どが外国製品にて国内製産者は、壊滅的危機に直面している。

・産地では、伝統的工芸品指定品と指定外品(準備工程は同じで織工程が動力織が違い)で形成しており、産地全体の問題と考えている。当産地での製品に対する記票による表示は、明治19年に遡り実施し、消費者の品質等の信用を高めるため関心がある。

- ・業種、業態にもよるが、事情はそう簡単ではないと思う。単に「排除」の論理でもって地域ブランドを際立たせようというレベルでは解決できるとは思えない。法的利括による「振興政策」は限界がある。
- ・外国製品との区別、差別化の中で、産地を守り育てる基準にしたい。その上で伝統的工芸品たる京扇子・京うちわの振興があると考えている。
- ・明治の時代よりこの地域で使用されており、その知名度は全国的に認識されている。その表示に依存する経済的メリットは多大なものがある。
- ・地理的表示は大変重要であると思われるが、慎重に検討しないと抜け道ができるように思う。
- ・一部分他の材料を使用しての商品の製造を活発にすべきと考える。
- ・模倣品は木地が寄せ木の粗悪品。下地も粗末で弱い。売場は捌ければ良いと偽物でも何でも扱うのでしょうか。本物には品位、品格がある。品質表示もしているので、充分確かめて買って欲しい。
- ・市町村合併等があった場合の地域名はどうか？
- ・商品別、産地別、差別化は産地として大きな課題、現実的には流通の面で困難、むしろ永久の課題で終わる。
- ・染色加工前の製品の原産国表示の義務化。
- ・伝統的工芸品の全産地に、商標を認可して頂きたい。

問16. (問2. で「取り扱っている」と答えた場合) その地理的表示又は地理的表示を含むマークを商標登録していますか。

	数	%
商標登録している	35	26.1%
商標登録していない	88	65.7%
回答なし	11	8.2%
合計	134	100.0%



問18. (問16. で「商標登録している」と答えた場合) その商標登録が役立っている点、あるいは、改善すべき点があればお答えください。

[主な回答]

「役立っている点」

- ・中国製品及び他の産地の製品との差別化を図るのに役立っている。
- ・産地のブランド名として認識されており、輸入品も含めて他産地製品との識別の目印となっている。
- ・国内はもとより全世界に販路開拓がしやすくなった。
- ・産品のブランド価値の保護。
- ・やたらにマークを使用できないので、組合員としての意思統一がはかれると思う。
- ・問屋が小売店に対して、小売店が消費者に対して説明する際、安心して買える商品として説明するのに役立つ。
- ・ブランド性、品質の保障がひと目で確認でき、消費者にとっては安心して購入することができる。
- ・永年かけて培った商標は、厳選された素材・技術・技法等の信用度と類似品との区別ができ、取扱い業者、消費者から信頼されている。
- ・消費者に対して本来の伝統工芸品であることを、認識させることができる。
- ・知名度を上げるとともに、産品の価値を認めてもらっている。
- ・伝統的工芸品の指定があるので、お客様へのアピール効果あり。
- ・国産であり、地域の商品であることの明示が出来る。
- ・本物志向の表示が出来て、販売向上につながっている。
- ・外国製品阻止の対策に役立つ。
- ・国内においては、商標法が摘要されることから、産地防衛に大いに役立っている。
- ・類似品が出た場合の対抗措置として機能するのではないかな。
- ・パンフレットや機関誌、封筒等に商標を印刷し、需要開拓事業等に活用している。
- ・他の織物との区別ができる。／技法を守ることができる。／類似品が出た時に注意をすることができる。

「改善すべき点」

- ・模造品(及び模倣商標)の消費者に対する影響等について流通等が複雑なため、特許庁及び裁判所が把握できていない。
- ・他産地商品と区別できる点では良いが、地域名+「縮」、「紬」の名称では登録できないため、類似の商標が出願されやすい。出来れば図形との複合商標ではなく、名称のみで登録できることを望む。
- ・口織りに織り込むことが出来れば良い(シールは剥がれる)

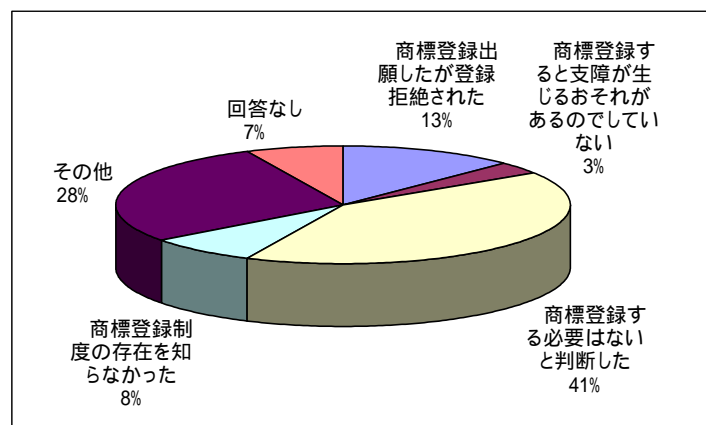
- ・人形類で登録が出来なかった。
- ・外国製品は原産国表示を法律にて徹底するようご指導いただきたい。
- ・中国等国外には、現在のところあまり効果がないことから、国において対中国対策を講じて頂きたい。

「その他」

- ・現在、業界及び消費者にブランド浸透を図っている最中であり、結果についてはまだ出てきていない。
- ・組合ブランドとして使用しているが、全国的にはまだ認知度が低いと思われる。今後は、ブランド化を誘って行きた
- ・全国的にあまり知られていないので、あまり使われない。知名度を高めたいと思うが、当地で悪用、盗用が多くその対抗策を研究中。
- ・組合の品質表示証紙に使用している。現状では品質表示に加え工程別の加工先を求められるため、細分化した表示を検討中。
- ・同商標登録は第24類の織物で登録しているため、現在産地から出荷は製品(衣類、小物等)に加工後販売しているので利用度が少くなっている。分類を広げる方法等弁理士と相談中、又団体登録制度の導入も検討している。
- ・商標登録の証紙は以前までは組合員に利用してもらっていたが、悪用したり弊害が出たので、現在は中止している。証紙はブランドの証しでもあるため、きっちりとした規約罰則を決めて新たに作り出し利用したい。その為の方法等を考える時間でもある。
- ・業界ではかなり浸透していると思われるが一般消費者に認知されているかは不明。
- ・登録を取っただけで全然いかされていない。メーカーで商標を外して無地で販売(卸商)。

問19.(問16.で「商標登録していない」と答えた場合) その理由について該当する番号をチェックしてください。

	数	%
商標登録出願したが登録拒絶された	11	12.5%
商標登録すると支障が生じるおそれがあるのでしていない	3	3.4%
商標登録する必要はないと判断した	36	40.9%
商標登録制度の存在を知らなかった	7	8.0%
その他	25	28.4%
回答なし	6	6.8%
合計	88	100.0%



問20.(問16.で「商標登録していない」と答えた場合)上記問19.の回答の具体的事情についてお答えください。

【主な回答例】

- 登録拒絶
 - ・商品の品質・産地・販売地を表示するにすぎず、自他商品の識別標識としては機能しないものであるとの指摘を受けた。
 - ・地域名を使った商標は登録出来ないとのこと。
 - ・弁護士へ相談した結果、産地の表示するに過ぎないため難しいとの見解を得た。
 - ・産地全体の製品について商標登録するのは難しい。
 - ・伝産法で大臣認定された産地表示を使用していたため、商標登録する必要はないと判断していたところ、他の組合が20年後に商標登録され、慌てて出願を相談したが、登録拒絶になるとのことであった。
 - ・他の産品が登録されていることを知り、先年行動を起こしたが却下された。「地名＋名詞」が認められないのであれば、ほとんどの工芸品はその名称を保護されなくなり、全く不信なことで現在も認識している。
 - ・商標登録の申請をしたが内容が一般的な言葉の繋がりのみであるから不可となった。
 - ・伝統的工芸品の指定を受けた時、商標登録の出願をしたが江戸時代より使用されているとの理由で拒絶された。
 - ・もっと、簡単に出来たらよい。

支障が生ずるおそれあり

- ・組合が新しいので伝統窯との支障がある。
- ・他産地との競合、競争関係がそもそも悪かった。中国製品との関連については、次元が異なる。
- ・古くからこの地域で製造されていたため、組合による商標登録には支障がある。
- ・350年の歴史があり、広範囲に名称が使用されている為、産地組合での登録は出来ない。
- ・産地内においても、個々に活動していることから1つにまとめることが困難。

・産地全体の製品について商標登録するのは難しい。

必要ないと判断

- ・多種多様な技術と素材が存在している為、スキームづくりが難しい。
- ・今日まで良く売れていた。この様に外国から安価で簡単に輸入がされることは思ってもいなかった。
- ・伝統的工芸品としてブランドが保護されている。
- ・伝産証紙の制度を活用しているので必要ないかと判断した。
- ・他産地による模倣品製造が考えられないため。
- ・知名度が公知であったため。
- ・表示に関する大きなトラブルが無かった。
- ・以前登録したことがあるが、経費上等の理由で必要ないと判断した。
- ・お金がかかる。
- ・他産地にブランド名を広く使われ迷惑しているが、生産地域が限定され、産地外の者にその名称を勝手に使われる恐れはない。
- ・現在他に同種の工芸品がないため、特に必要ない。
- ・産地ブランドとしてのネーミングが弱い。
- ・地名の使用は組合と言えども独占すべきでないと考えていた。
- ・現状では地理的表示が社会一般に広く知られた段階に至っていない。
- ・それぞれの企業が自社マークを表示している関係上、地域ブランド表示と重複し徹底しにくい面がある。
- ・外国産の物と区別するために、産地を表示することは必要なことであり、伝統証紙や箔、しおりなどに表示したり、品質表示のシールをつけることにより、産地を表示することで、間に合ってきた。
- ・過去に商標権を有していたが、組合員の廃業や製造業者の減少などの理由で更新を断念した。
- ・過去に商標権を有していたが2回目の満了日を迎えたところ、組合員の廃業や製造業者の減少などの理由で更新を断念する結果となった。

存在を知らなかった

- ・被害(モノマネ、他国からの安価商品の輸入)等がまだおきていないので正直な所まだ実感がない。
- ・伝統的工芸品に指定されているのでそれで良いと思っていた。

その他

- ・商標登録をしたマークだけを付けられても製品自体を守らなければ利用価値が少ない。伝産法制定時はデパート家具店で「風」「調」と表示された時期があったが、現在はスーパーのプラスチック製品にも地理的表示が使われている。
- ・中国で商標登録の噂があり、日本への流入時の対策と町内での工程等の基準の制定のため出願中。
- ・産地組合としての名称の商標登録はなされていないが個々の事業所により独自に商標登録している。固有の名称商標登録を行っており、地理的表示を併用しているケースはない。
- ・品目、種類がたくさんある為、例えば、碁石、灯ろう、彫刻、建築石材、モニメントなど製品の品目が多いうえに、サイズもバラバラである。
- ・生産者の高齢化が進み、販売実績が少ない。
- ・少し前まではいろんな国からいろんなものが入って来ていたが、でいいよっていい国ばかりで、削っていたものが良かったが最近日本のものを見本に日本の物と区別出来ないものにと全く同じようなものが作られるようになり困っている。
- ・現在マークの制作を検討中である。
- ・産地における生産品は、布地生産が多く、産地ブランドにおけるユーザー(最終製品にむけ)への接供をしているところであるが、全体的には問屋、商社向け、布地素材としての生産が主流である。

問21.(問2.で「取り扱っている」と答えた場合)商標制度の登録の他、地理的表示の保護のためにどういった取組を行っていますか。(複数回答可)

自主的にTM(トレードマーク)をつけている。
伝産法の「伝統証紙」制度を活用している。
地域ブランドに関するPR活動を実施している。
その他
回答なし

